

宝物はすぐそばに

校内研通信

第4号

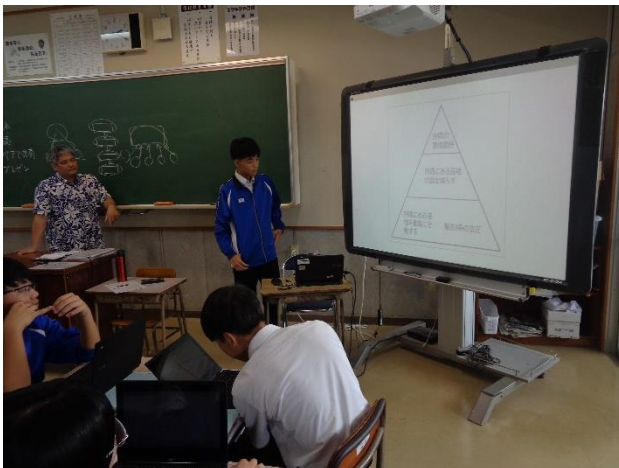
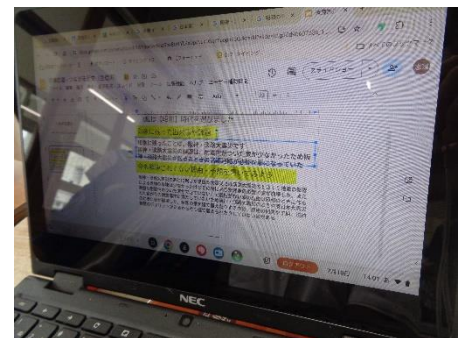
R7.7.14

発行者:校内研担当 仲村智

過去と現在、歴史と公民を“つなぐ”授業

7月10日(木) 5校時、3年2組にて野原太地先生が社会の授業を公開しました。本時のねらいは、昭和・平成・令和の歴史的な出来事や社会課題を資料から読み取り現代社会とのつながりを理解することが目的です。表題にあるように、過去と現在、歴史と公民をつなぐ壮大なスケールの授業に対して、さすが3年生、一人一人が昭和・平成の出来事の中から現代にも課題として残る出来事を選び、自分の意見を表現することができていました。生徒は授業を通してタブレットを活用していくことで、ネットを利用した課題探しや意味調べなどを行い、最大限その利点をいかして短時間で意見をまとめ、その後のグループでの交流から課題解決のための方策の全体共有と、盛りだくさんの内容にもかかわらずタイムマネジメントをきちんと行うことができました。太地先生のファシリテーターとしての教師としての役割及び机間指導も効果的だったなと感心😊

太地先生素敵な授業をありがとうございました。2年研の課題研究も頑張ってくださいね。



RS (リーディングスキル) の育成という観点で授業を観たときの授業改善のポイントを確認します。

【Point6】意図的にアウトプットの機会をつくる！

- ☐ あいまいな表現ではなく、**具体的に表現**させているか？
- ☐ 教師が**意図的な問い返し**をしているか？
(理由を説明させる / 根拠を探させる / 妥当性を判断させる 等)
- ☐ 教科書の**文章を図表等に表現**させているか？



- 「とても楽しかったです。」「すごいと思いました。」など、子供たちがよく使うあいまいな表現ではなく、具体的に表現させる。
- なぜそうなのかという理由を説明させたり、本当にそう言えるのかという妥当性を判断させたりする。
【推論】【具体例同定】
- 教科書の文章を図表等に表現させる。【イメージ同定】